

所属	福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻2年 3720120001
氏名	川口真理子
学位の種類	修士(社会学)
学位論文題目	知的障害を持つ子どもの性規範に関する実証研究—養護学校における参与観察から
研究指導教員	主査 紀 葉子

論文の構成

第1章研究の視点と論文の構成	第3節インタビュー調査
第2章知的障害を持つ人の「性」をめぐる問題構成	第4節調査のまとめ
第1節家族と社会の「性」の問題	第4章知的障害をもつ子どもの性の現状と課題
第2節性教育の不足が生み出す問題	第1節知的障害を持つ子どもの性の現状
第3章養護学校における調査	第2節親の考える子どもの性規範
第1節調査校の概要	第3節教師が捉える知的障害児の性規範
第2節参与観察	第4節今後の研究課題

第1章 研究の視点と論文の構成

問題意識と研究方法

知的障害を持つ人の性支援が困難な理由の1つには、障害特性ゆえの知性・理性領域の弱さがある。判断力やセルフコントロールの弱さの故に表れた性的な行動が不適応行為として評価されてしまいがちだ。京俊輔(2008)は、知的障害者の性の「問題」は道徳性の欠如や社会性の欠如など否定的な見解と関連づけられることが多いと述べている。2つめに保護者の存在がある、角田禮三(1997)は知的障害を持つ子どもの親は性教育として性行動については教えて欲しくないとしながら、反面それらが親の悩みであることも指摘している。学校現場の教師は親の意向を考慮してどこまで性に関して教えたらいいか戸惑うことにもなり、保護者も教師も子どもの性的な成長を歓迎しない傾向があることを京は指摘している。3つめは、社会の障害者の性に対する理解の不十分さであろう。谷口明広(1998)は日本人の「性意識」は障害を持つ人たちを「永遠の子ども」として認識し、認識させることで一定の安心感を獲得してきたと述べている。

以上の点をふまえ、本研究の目的は知的障害を持つ子どもと親や教師との間に存在する性をめぐる意識に着目し性規範、性を語ることへの閉鎖性を実証することにある。これにより、社会の規範が作り出す社会的障壁を克服し、障害を持つ人への建設的な理解につなげるための一つの提案を導き出す意義のある研究と考える。

本論文の研究方法は以下のとおりである。

(1) 文献研究としてフーコーの「性規範」に関する理論を参考に整理する。また知的障害を持つ人の性に関する意識調査や性教育の障壁の背景などに言及している先行研究を整理・分析をする。

(2) 実態調査として質的調査方法である参与観察(調査場所X市立養護学校)とインタビュー調査(保護者・教師)を行う。知的障害を持つ子どもたちの性をめぐるありようを詳細に観察し、教師や保護者の意識の特徴を抽出することを試みる。実践資料の収集とその整理・分析を行う。

(3) 参与観察を選択した理由2

箕浦康子（1999）は現場のありようをすくい取るのに最適なものは参与観察であると述べている。現地調査研究（参与観察）を必要とする主たる理由は以下4点であり、時間をかけた臨地調査が有効と考える。

- ①知的障害の特性としてコミュニケーションの困難さが想定されることから、時間をかけた観察が障害を持つ子どもの性の特徴をつかむことにつながる。
- ②普段、知的障害を持つ子どもとかかわりを持たない研究者が調査に入ることは先入観にとらわれず状況に即した柔軟な調査を行うための探索的研究に適している。
- ③教師・保護者へのインタビュー調査は他の量的研究での教師や保護者の意識に関する調査では得られない深い洞察を可能にする。
- ④性に関してはプライバシーの問題や話しづらさもあり、うちとけるには時間が必要である。

なお、本研究は東洋大学大学院福祉デザイン研究科研究等倫理委員会の審査を受け、プライバシーに配慮し、個人が特定されることがないように配慮する。参与観察のインフォームドコンセントは、学校長より保護者宛に文書にて説明し了承を得る。インタビューは書面と口頭での趣旨説明に合わせ、匿名性と権利擁護を確約して半構造化面接を行い作成した逐語録をもとに分析する。

第2章 知的障害を持つ人の「性」をめぐる問題構成

第2章は知的障害を持つ人の「性」をめぐる問題構成を、第1節では家族と社会の「性」の問題についての文献を参考にしながら、特にフーコーの性規範の理論を中心にまとめる。また、日本の民俗誌の視点から障害を持つ人に対する、常人のまなざしも探っていく。また知的障害を持つ人に対する周囲の不十分な理解や誤解が生み出す今日的課題を明らかにし、特に知的障害と性教育に見られる規範を整理・検討する。

第3章 養護学校における調査

(1) 調査校の概要

X市立養護学校は生徒数200名（15歳～18歳の男女）・教員数名・保護者会会員約名からなり、同校の教育課程で性教育は行われている。

(2) 調査期間：2013年9月2日～2014年3月13日月曜日～木曜日終日

(3) 保護者・教員10名程度のインタビュー調査半構造化インタビュー

第4章 知的障害をもつ子どもの性の現状と課題の考察

参与観察ならびにインタビュー調査の結果から、知的障害をもつ子どもの性の現状と課題の分析ならびに考察を行う。分析の視点は当事者の性の現状、親の考える子どもの性規範、教師が捉える知的障害児の性規範を考えている。本研究の限界と今後の課題を明らかにする。